

2025 年 6 月 8 日 聖霊降臨「あなたがたの内にいる」

ペンテコステおめでとうございます。今日の聖霊降臨の日を、教会のお誕生日としてお祝いする教会が多くあります。私の出身教会もその一つでした。

この日の礼拝にはみんな必ず、赤い物を身に付けて集まります。そして本日の第 1 日課である、使徒言行録の 2 章 1 節から 21 節を、3—4 節ずつ細かく区切って、いろいろな国の言葉で朗読します。また賛美礼拝として、新しい賛美歌をギターやドラムの演奏と共に行うこともありました。

そして礼拝が終わると、必ずバーベキューがありました。これは「炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。」という聖書の言葉から、多くの教会でもペンテコステに行われる、恒例行事かもしれません。

けれど先週、ある家庭集会で「主の昇天」をおぼえて礼拝をしている時に尋ねられました。

「聖霊が来られる時って、どんな感じなのでしょうか。」

この質問に私は戸惑いました。使徒言行録には確かに、「五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほか

の国々の言葉で話した。」とあります。

けれど実際にその光景に実際出会った事はありません。聖霊が降る前触れの、激しい風が吹いてくるような音も、炎のような舌が分かれ分かれに現れて、一人一人の上にとどまる場面にも出会っていません。

「ただ何か危ない所を切り抜けた時に、『ああ、聖霊のお働きに導かれ、無事に守られたんだ』と確かに気が付く事があります。」

とお答えしました。これが私の実感です。聖霊のお働きにはいつも後で気が付きます。自分がまったく知らないうちに、安全で正しい道に導かれているのです。

聖霊はいつも私たちの内にあって、いつも静かに私たちを支え、導いて下さいます。これは確かな事です。主の洗礼を受けた者たちは、すでに聖霊を受けているからです。これは修行を重ねた職人の仕事と似ています。腕に覚えのある職人は自然に仕事をします。板前は煮炊きに時計を見ません。けれど絶妙の間合いで鍋を火から下ろします。塩加減も計量匙は使いません。三度に分けて塩を振り入れて味見をすると、一瞬手が止まります。決め手は数字や言葉になりません。

先週私はある人の御葬儀に参列しました。そこで同じように故人を送るために来られたデザイナーから、素晴らしい話を聞きました。その方はピクトグラムという特別な物を作る職人の親方です。

ピクトグラムは日本語では、絵文字や絵言葉と翻訳されます。1964

年東京オリンピックから、日本でも盛んに使われるようになりました。言葉でなく絵で、世界の人たちに意味を語りかける、魔法のようなデザインです。空港や映画館などで、皆さんもお馴染みでしょう。このお陰で安心して海外旅行も出来ます。

これを専門に作るデザイナーの彼には、日本びいきのオランダ人の同業者の友人がいます。この友人が目指す所は「何だか知らない内、見た事も意識せず目的地に着く。そんなピクトグラム。」

実に深い意味を持つ言葉です。自意識を超えた場所に働きかける、メッセージを彼は目指しています。このさりげなさは、まさに聖霊の働きです。

またこの日本人デザイナーには、ファンレターを通じて出来た、知り合いがいます。まだ年若いこの愛好家は、特に非常口のマークが大好きです。その理由は「そこには安全な場所が約束されているから」です。

この言葉も大変に趣深く、考えさせられる言葉です。果たして私たちの掲げる教会の十字架は、すべての人たちが安心して逃げ込む事の出来る、安全な場所となっているでしょうか。

ペンテコステの今日私たちは今一度、真摯に心から悔い改めて、教会の扉を大きく開き、多くの人を招き入れる準備をしましょう。私たちの内に聖霊は豊かに働いておられます。主は言われます。

「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。この方は、真理の霊である。世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。しかし、あなたがたはこの霊を知っている。この霊があなたがたと共におり、これからも、あなたがたの内にいるからである。」

聖霊を簡単に見ることは、私たちには出来ません。けれど聖霊の内なる働きを、私たちは感じる事が出来ます。愛なる霊に動かされて、神さまを愛し、隣人を愛して、主に従って行きましょう。